

栽培種目：ナス 3 品種

ナスの無農薬栽培と連作栽培（連作 4 年目）

氏 名：加藤亜紀子（2-I）

〈要約〉

ナス 3 品種（とげなし千両、ミズナス、庄屋大長各 2 株—タキイ種苗）を昨年引き続き同じ場所で栽培した。ミズナス No2 の収穫量が大幅にダウンし、芯喰い虫による枝の被害 2 件、実の食害 1 件と虫害が増加した。

喰い虫の被害 2 件。曲がり果に食害 1 件発生。ミズナス No2 は生育不良で収穫減となる。

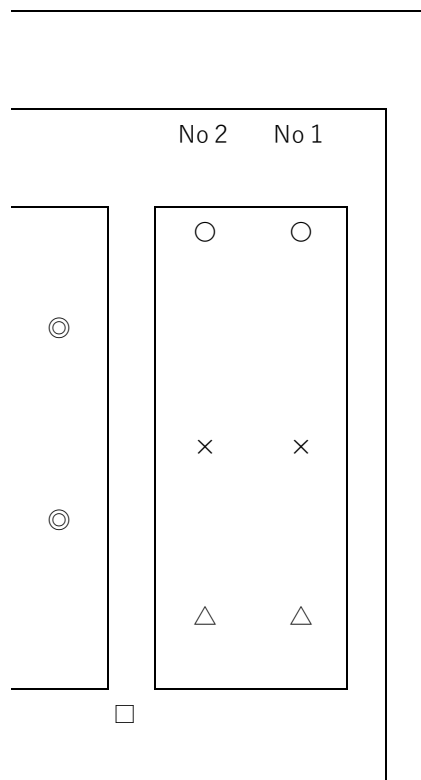
1. 初めに

5 月 14 日（木）にナス 3 種 6 株を移植し、同時にサニーレタス苗とチンゲン菜、パセリの種を播く。コンパニオンプランツとしてではなく、空き地があるので蒔いたということです。

2. 方法、経過

4 月 4 日（日）に、ナス予定地にモミ殻燻炭、ミリオン、貝石灰、コーラル、カニ殻、ヌカ、マスコバト糖を鋤き込み、イネ科の草、生ゴミ+ヌカ+コーラル+草木灰+マスコバト糖を混ぜたものでマルチする。（これは、土の団粒化を進め、保肥力アップと追肥減量、土壌菌の多様化のために行う。）

5 月 14 日（木）にナス 3 種を移植する。6 月 29 日（月）に庄屋大長 No2 の葉に病変（葉の黄変）が出現し、その後拡大する。芯



- とげなし千両
- × ミズナス
- △ 庄屋大長
- ◎ 大玉トマト（パルト）
- カボチャ（ブラックのジョー）
生ゴミより芽が出る

ミネラル液肥（シュルツ液肥）を、8/10、8/18、8/26の3回撒く。8月は高温が続いたため、8/4、8/8にもヨーグルト+マスコバト糖液をまいた。液肥はこの5回のみ。

11月12日（木）、ナス3種を処分。



庄屋大長 No2 の葉の状態 6/29



4/4(日)、ナス予定地の準備状況



6/29(月) ナス畑全景

3. 結果

収穫結果

		2017	2018	2019	2020
トゲなし 千両	No1	30	36	27	60
	No2	17	35	28	45
ミズナス	No1	17	20	28 ▲ 1	42
	No2	11	46	41	19
庄屋大長	No1	31	33 ▲ 2	38 ▲ 2	41
	No2	26	28 ▲ 1	47 ▲ 2	52 ▲ 1
合計		132	198 ▲ 3	209 ▲ 5	259 ▲ 1

▲：台風被害、実割れ（1）、食害（1）

収穫期間

2017年 6/20～9/14

2018年 7/2～9/29

2019年 6/22～9/30

2020年 6/29～10/16

4. 考察

①ミズナス No2 の収穫量大幅減は、大玉トマトとカボチャの繁茂、とげなし千両 No2、庄屋大長 No2 の生育で日陰となり、十分に生育できなかったため。

②8月の異常な暑さは、液肥を投入することで乗り切れたと考える。

③4月4日(日)に整地したことにより土の状態がよくなり、連作可能となったと考える。

5. まとめ

ミズナス No2 は、他の株の生育旺盛に押され減収となったが、総収穫量はアップしており、連作はできていると考える。

毎年の葉の病変出現は、'19年に強風によるストレス案を出し、ボツにしましたが、今年は改めてこれだと考えます。

参考文献

- 安倍豊 (2015)『一番親切でよくわかる有機無農薬で家庭菜園』家の光協会
- 木嶋利男 (2006)『農薬に頼らない家庭菜園 コンパニオンプランツ』家の光協会
- 隔月刊誌「野菜畑」家の光協会

施肥回数

	2017	2018	2019	2020
ヌカ+マ			1	2
牛乳+マ	1		3	
ヨーグルト+マ	1	6	7	8
酒粕+マ			2	
牛乳+ヨーグルト+マ	6			
ヌカ+コーラル+マ	6			
生ゴミ			4	2
生ゴミ+ヌカ+コーラル+マ	3			
ミカンの皮+ヌカ+コーラル+マ	3			
生ゴミ+ヌカ+コーラル+草+ヨーグルト+マ			3	
生ゴミ+ヌカ+コーラル+草+酒粕+マ			1	
木(竹)酢液	7	2	2	2
生ゴミ+ヌカ+コーラル+草+マ		7	1	3
ヌカ+コーラル+草+マ		2	7	3
ミネラル液肥		6		3
クエン酸		1	3	
Mgの粒		1		
酒粕+ヨーグルト+マ				1
生ゴミ+ヌカ+コーラル+草+酒粕+ヨーグルト+マ				1
合計	27	25	34	25

マ：マスコバト糖 草：草木灰

ヨーグルト・酒粕等の発酵食品の投入が増えている。